

令和4・5年度

研究領域 「B 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」

## 「自ら考え、学び、表現する児童の育成」 ～読解力向上を目指した学習指導～



あいさつ

校長 財部 幸樹



本校では、令和4年度・5年度の2カ年にわたり「B 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」を研究領域とする実践研究に取り組んでまいりました。研究を進めるにあたり、研究主題を「自ら考え、学び、表現する児童の育成」、副題を「読解力向上を目指した学習指導」と設定し、国語科、社会科における指導改善・充実を目指してまいりました。

読解力を「テキストを確実に読み取り、比較・関連して考え、表現する力」と設定し、読解力の捉え方を整理したところから本研究をスタートしました。そして、読解力向上を目指すための仮説を立証するため、授業等における手立ての実践・検証を丁寧に積み重ねてきたところです。今回一つの区切りを迎えますが、本研究の成果と課題を精査し、次年度以降の研究に活かしてまいります。

結びに、本研究を推進するにあたり、親切丁寧なご指導を賜りました、さいたま市教育委員会指導1課 主席指導主事兼係長 古川 明子様、指導主事 青木 翔様、主任指導主事 小林 孝太郎様（令和4年度当時）に心から感謝申し上げます、あいさつとさせていただきます。

## さいたま市立常盤北小学校

## 研究の構想

### 研究主題

## 「自ら考え、学び、表現する児童の育成」

～ 読解力向上を目指した学習指導 ～

### めざす児童像

- テキストを読み取り、根拠に基づいて考える子
- 自分の考えに自信をもち、発信する子

### 研究の仮説

「考える力」を中核とした「読む力（聞く力）」「書く力（話す力）」を総合的に高めていく教育活動を展開すれば、読解力が向上するだろう。

### 本校における読解力の定義

「読解力」・・・テキストを目的に応じて読み取り、比較・関連して考え、表現する力

### 視点及び手立て

#### ≪視点1≫ 読む力の育成 (聞く力)

##### <手立て1>

- ・資料の精選
- ・資料の読み取り方の具体的な指導
- ・基礎的な読み方を生かした学習活動の展開
- ・語彙を増やす活動
- ・関連読書本を紹介する環境整備

#### ≪視点2≫ 考える力の育成

##### <手立て2>

- ・課題設定の工夫
- ・資料提示の工夫
- ・資料の工夫  
(事象の多面性に気付かせる資料、複数の資料等)
- ・学習したことと生活との結び付きを捉えさせる活動の工夫

#### ≪視点3≫ 書く力の育成 (話す力)

##### <手立て3>

- ・書く視点、話す視点を明確にした指導
- ・根拠に基づいた表現の仕方の提示
- ・基本的な話型の指導
- ・自分の意見を深化・拡充させる話合いの工夫

児童の実態に合わせた支援

ICT機器の活用

# 令和4年度の授業実践

第1学年 国語「じどう車くらべ」

**手立て2 資料提示の工夫(ICT 機器の活用)**  
実際の映像を見せることで、自分が読み取った情報が正しかったかどうかを確認し、イメージを膨らませる。



第5学年 社会「未来とつながる情報」

**手立て3 自分の意見を深化・拡充させる話し合いの工夫**

資料から読みとった事実をもとに、思考を深められる点や疑問を明確にして話し合い活動を行うことで、話し合いを活性化させ、資料を結び付けたり、比べたりして考えることができるようにする。



# 令和5年度の授業実践

第2学年 国語「さけが大きくなるまで」

**手立て1 基礎的な読み方を生かした学習活動の展開の工夫**

読み取ったさけの大きさや様子を模型を使って表現し、友達に伝える活動を通して、さけの動き方について理解を深められるようにする。



第3学年 社会「安全なくらしをまもる」

**手立て3 根拠に基づいた表現の仕方の工夫**

One Note を使い資料を提示し、新聞記事やグラフに直接根拠に印をつけさせ、根拠を明確にし、パソコン画面を直接さしながら説明することで、友達に説明しやすくする。



## 研究の成果と課題

○・・・成果

●・・・課題

### 国語

- 動画の活用、音読を動画撮影し振り返る等、ICT を活用することによって児童の文章理解につながり、自信につなげることができた。
- 動作化及び模型の活用等の具体物は、低学年のテキスト理解において有効な手立てであった。
- テキストのどこから読み取ったのかを質問することが、根拠を基に考える手立てになるので、適切な切り返しの充実を図る。

### 社会

- 最新の情報を選ぶなど、動画資料の選定を充実したことで、課題を身近なこととして捉えることができ、テキストを読み取る手掛かりとなっていた。
- タブレットで調べた資料等を活用しながら、根拠を基に話すことができていた。
- インターネットの情報や教科書や資料集などの多様なテキストを意図的に児童に選択させる機会を充実していく課題解決のための資料の取捨選択能力の向上が必要である。

## ご指導いただいた先生方

### 令和5年度

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課 主席指導主事兼係長 古川 明子 先生  
さいたま市教育委員会学校教育部指導1課 指導主事 青木 翔 先生

### 令和4年度

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課 主席指導主事兼係長 古川 明子 先生  
さいたま市教育委員会学校教育部指導1課 主任指導主事 小林 孝太郎 先生

## 研究に関わった職員

### 令和5年度

◎研修主任

○研修推進委員

校長 財部 幸樹 教頭 遅澤 麻奈美 教務主任 清水 大貴  
○野口 利恵 和泉 美穂 ○横山 敬子 西畑 誠太郎 ○小池 智行 小林 凧砂  
○大久保 智恵 稲毛 ゆか 久原 朋子 ◎立道 香織 森 裕貴 ○滝口 真輝  
○福田 さおり 山口 倫子 根岸 佳央 坂口 遥子 田中 久美江 塩原 幸代  
清水 由希子 松本 明子 大上 翔子 酒巻 恵子 澤田 眞里奈 大根田 梨乃  
秦野 昌明 粕井 道子 田口 暁美 相馬 郁恵 吉野 雅子 谷 みつ美  
小阪 陽子 宮内 宗子 今野 早紀 本間 健一 平 美樹渚 齋藤 淳嗣  
松本 友香 名田 典子

### 令和4年度

校長 石崎 敬吾 教務主任 松下 和美  
中村 康宏 佐々木 優花 南 由美子 箕輪 祐子 三ツ木 由華 加藤 有希  
磯田 勝 小出 美知 野澤 望美 田中 美由紀 奥山 隆